

寅さん歩 その13

お江戸の閻魔大王-6

(北千住～瑞江)



平野 武宏

お江戸の閻魔大王には「寅さん歩 その11 江戸・東京の祭-28 (江戸らしい祭-12) 閻魔まつりで7ヶ所訪問しましたが、お江戸の閻魔大王はなんと44ヶ所もあるとのこと。2012年寅次郎がお江戸に移り住み、入会した東京都ウォーキング協会(以降TWA)では8回に分け、2年間かけて歩いて巡る予定と知り、「寅さん歩」の新たなテーマとして取り組みます。今回はその6です。

閻魔大王にはご開帳の時(1月・7月)にしか、ご尊顔を拝見することが出来ませんが、当日はTWAが寺院に特別にお願いして、お会いすることが出来ます。

平成29年(2017年)4月9日のお閻魔めぐり例会は雨でしたので、後日、1人で5ヶ所の閻魔大王に会いに行きました。その為、お目にかかれぬ閻魔大王もいました。説明内容は現地の説明板を優先し、当日の配布資料を補足にしています。最寄り駅は代表例です。

[三宮神山 大鷲院 勝専寺]

足立区千住2-11-1 最寄駅 JR常磐線 北千住駅

北千住駅から旧日光道中、今は商店街を左折して、少し行くと右手奥に赤門が見えます。

門前の説明板には『「赤門寺」の通称で親しまれている浄土宗の寺院で京都知恩院を本山とする。寺伝では文応元年(1260年)勝蓮社専阿上人を開山、新井正勝を開基として草創されたという。

江戸時代に日光道中が整備されると、徳川家の御殿が造営され、徳川秀忠・家光・家綱らの利用があった。また日光門主等の本陣御用を務めた記録も見られ、千住宿の拠点の一つであったことが知られる。加えて当寺は千住の歴史や文化に深くかかわる多くの登録文化財を今に伝えている。

木造千手観音立像は千住地名起源の一つとされ、開基 新井正勝の父 正次が荒川から引き揚げたという伝承を持つ。他に1月と7月の15日・16日の閻魔詣で知られる寛政元年(1789年)の木造閻魔大王坐像、巻菱潭の筆による明治12年(1879年)の扁額「三宮神山」を山門に掲げるほか、千住の商人高橋繁右衛門の兜付具足」を伝来し、いずれも足立区登録文化財になっている』と記載。



写真上左は赤門と扁額。赤門左手の建物が閻魔堂の後で写真上右の閻魔大王が鎮座。上手に撮れた閻魔まつりの写真を使っているのでお供え物が多いです。「閻魔まつり」は 寅さん歩 その11 江戸・東京の祭-28 (江戸らしい祭-12) を参照ください。

[氷川山 地藏院 金蔵寺]

足立区千住 2-63 最寄駅 JR常磐線 北千住駅

旧日光道中(商店街)を挟んで反対側(駅寄り)にあります。門前の説明板には「当寺は真言宗豊山派で、氷川山 地藏院(または閻魔院)と号す。本尊は閻魔大王で、建武2年(1335年)3月の創建という。金蔵寺の門を入ると左側に2メートルほどの無縁塔がある。これは天保8年(1837年)に起こった大飢饉の餓死者の供養塔で、千住2丁目の名主 長野長右衛門が世話人になり、天保9年(1838年)に建てたものである。並んで建つ供養塔は千住宿の遊女の供養塔で、この地で死んだ遊女の戒名が石に刻まれている。千住宿には本陣、脇本陣の他に55軒の旅籠屋があり、そのうち食売旅籠(遊女屋)が36軒あった。江戸後期には宿場以外には江戸近郊の遊里として発達した。

その陰で病死した遊女は無縁仏同様に葬られた。その霊を慰めるための供養塔である」と記載。

ご本尊の閻魔大王は写真下左の本堂に鎮座しているそうだが、お目にかかれなかった。この閻魔大王は毎夜美しい娘に化け、蕎麦を食べに出かけたという、別名「そば食い閻魔」とのこと。又、両脇の司令・司録が坊さん姿とのこと。写真下右は供養塔です。



〔豊徳山 恵心院 誓願寺〕

荒川区南千住 6-69-22 最寄駅 JR常磐線 南千住駅

足立区側からは千住大橋を渡り、右手に、荒川区南千住の駅からは素盞雄神社の先にあります。千住大橋は芭蕉が「奥の細道」の旅に出立した地です。



門前の説明板には「浄土宗の寺院で、豊徳山 恵心院という。奈良時代末期(780年頃)の草創で、長保元年(999年)恵心僧都源信が天台宗寺院として開基したと伝わる。

その後、慶長元年(1596年)芝増上寺 18世が天台宗を改め浄土宗とした。本尊阿弥陀如来は聖徳太子の作と伝える。天正19年(1591年)徳川家康が巡覧した折に腰かけたという榎が2本あった」と記載。

ここの閻魔大王は戦災にあったため、木彫そのまま、うっすらと彩色してあるそうだが、残念ながらお目にかかれませんでした。

〔八幡山 来迎院 上品寺〕

葛飾区東新小岩 7-8-2

最寄駅 JR 総武線 新小岩駅からバス利用

バス停「天祖神社前」で下車、少し戻ると進行方向左手にあります。石門を入ると左手に閻魔安置堂があり、説明板には「当寺は新義真言宗にして八幡山 来迎院という。この閻魔堂に安置する閻魔大王坐像は高さ206cmあり、かつて江戸16閻魔の一つとして栄え、区内最大のものである。閻魔大王は地獄に住み18の将良と8万の獄卒を従え、死して地獄に堕ちくる人間の生前の善悪を正し、罪ある者には、苦しみを与える冥王として信仰する人が多い。当寺の閻魔は、江戸中期に最も盛んに信仰され、昭和47年(1972年)に閻魔堂が新築され、現在に至っている」と記載。

写真下左の建物が閻魔堂で写真下右の閻魔大王が鎮座。



〔西方山 浄土院 安養寺〕

江戸川区東瑞江 2-50-2 最寄駅 新宿線 一之江駅からバス利用

バス停「鎌田宿」で降り、前方の細い道を入ると奥にあります。

門前の説明板には「浄土宗の寺で永禄 10 年（1567 年）栄三大和尚によって開山されたといわれています。本尊は木造阿弥陀如来坐像を祀っています。閻魔像は仏身約 45 センチメートルで江戸時代から「こんにやく閻魔」と称されています。昔は、歯の病や眼疾の人々の信仰を集めました。毎月 16 日に生蒟蒻を供えて、病氣平癒を祈るものが多かったといえます。また、蛤の貝殻に入れた目薬と、尊像を摺った御影が参拝者に授けられました。寺宝として、狩野尚信、狩野常信作の絵画があります」と記載。本堂内（写真下右）に鎮座の「こんにやく閻魔」には、お会いできませんでした。



このコースは通して歩くと 18 k m のウォーキングコースです。
今回で累計 32 ヶ所 (内 2 ヶ所は奪衣婆のみ) を巡りました。
次回の「閻魔大王めぐり」の例会は 7 月の予定です。

説明板の文章の出で来る、似たような言葉の意味をあまり気にしていませんでしたが、この際、自分なりに整理してみました。

【こぼれ話-1】街道と道中

その違いを調べると諸説がありましたが、寅次郎が気に入った違いはこちらです。

『徳川家康が入府し、日本橋を起点に五街道を整備しました。京の都に向かう「東海道」と「中山道」を街道と呼び、他を「甲州道中」、「日光道中」、「奥州道中」と呼び、区別しました。京の都(朝廷)に気を遣い、京の都をたてたのが本音と思われる』

【こぼれ話-2】開基と開山

寺をつくった人物というような意味で同じように使われていますが、「開基」とはお寺を創建する際に経済面を負担した世俗の人、「開山」とはその寺の初代住職を指します。

【こぼれ話-3】建立と創建と草創

寺を新たに建てるという意味で用いられていますが、「建立」は古くは建物に限定せず、宗派を開く・打ち立てる意味に用いられた言葉とのこと。「開祖」も同じ意味に使われます。

「創建」は初めて寺を建てることをいいます。

「草創」は物事の始まりや寺を建てることをいいます。

次回は 東京に こんなところ-16 です。

平野 寅次郎 拝